

ルクセンブルク経済・金融（2019年8月）

1 統計関連

- 7月のインフレ率は年率1.84%（前月1.83%）（8月7日付統計局プレスリリース）
- 7月の失業率は5.5%（前月5.5%，前年同月5.5%）（8月20日付統計局及び職業安定所プレスリリース）
- 当国統計局（Statec）によれば、昨年の越境労働者人数は19万2千人で、前年より4.5%増加。越境労働者は合計で115億ユーロの収入を得ている。19万2千人のうち半数強がフランスからの越境労働者で、一年あたりの平均収入は48,845ユーロ。フランスからの越境労働者の多くが食品関係等の収入の低い職業についており、また、平均年齢も若い。一方で、残りの半数を占めるドイツとベルギーからの越境労働者の平均収入はそれぞれ、57,205ユーロ（ドイツ）、59,500ユーロ（ベルギー）となっている。逆に、当国からフランスやドイツ、ベルギーへ越境労働者として通勤しているのはおよそ1500人ほどおり、更に、当国にある各種欧州機関及び国際機関に勤務している人は11,290人いて、年間合計で約14億ユーロを稼いでいる。（8月4日付 **Luxembourg Times** 紙）
- 欧州委員会の2019年春の **Eurobarometer** レポートによれば、当国居住者の約60%が当国の不動産状況に対して懸念を示しており、当国は **EU** 加盟国内で最も多く国民が不動産市場に不安を抱えている国となった（**EU** 平均は13%）。（8月5日付 **Luxembourg Times** 紙）
- 欧州統計局（Eurostat）によれば、2019年第1四半期の当国の累積債務残高は126億ユーロと、前年同期よりも0.1%増加ではあったものの、対 **GDP** 比は21.3%と1%下がっている。しかし、南東ヨーロッパ諸国での対 **GDP** 累積債務残高比の下降率はより著しく、ブルガリアの2019年第1四半期は21.2%と前年同期の24.3%から3.1%下がった。これにより、2004年にエストニアが **EU** 圏に加盟するまでは一位、それ以降は2位を保っていた当国の対 **GDP** 累積債務残高比の低さは、**EU** で三番目に低いものとなった。（8月8日付 **Tageblatt** 紙）
- **Statec** によれば、2019年のインフレ率は1.9%となる見込み。また、2020年については、公共交通機関の無料化と世界経済の停滞により、1.7%となる見込み。更に、次のインデックス制度の導入による、所得の2.5%の自動引き上げは本年10月から12月の間に施行されるだろうと予測している。（8月9日付 **Luxemburger Wort** 紙及び **Tageblatt** 紙）
- ポルトガル系不動産企業 **Imovirtual** 社によれば、当国国民は自身の収入の37.85%を住宅費にあてており、これはアイルランドとポルトガルに次いで三番目に高い比率であ

る。周辺国は、フランスが26%、ドイツが24%、ベルギーが22%となっており、EUで最も低い割合はギリシャの19.13%である。なお、所得の30%程度までなら「手頃な価格 (affordable)」であると考えられる。(8月20日付 **Luxemburger Wort** 紙)

● 当国で40年働いた人が受給する年金額は月1, 841ユーロ以上8, 525ユーロ以下である。2018年12月時点の当国の年金受給者数は計98, 470人。うち35, 050人が40年をフルタイムで当国で働いており、平均受給額は月3, 862ユーロである。そのほかの63, 420人は40年以下の時間を当国でフルタイムで働いており、そのうち海外で働いていた時期がある人の平均受給額は月1, 244ユーロ、海外で働いていた時期がない人の平均受給額は月1, 455ユーロである。(8月29日付 **RTL** 紙)

2 政府等関連

● 当国は国民総所得 (GNI) のおよそ1%の、4億130万ユーロを国際開発協力を投資している。このうち75%は緊急事態の対策として、20%は被害を受けた地域の再生に使われる資金として、5%は予防措置のために利用されている。当国の国際開発協力におけるパートナー組織は国連機関、13のNGO団体(そのうち10は当国のNGO団体)、緊急支援制度である **emergency.lu** 等がある。なお、2018年において人権保護プロジェクトに当国は5300万ユーロ、GNIの13%を投資している。(8月20日付 **Luxemburger Wort** 紙, **Tageblatt** 紙, **Le Quotidien** 紙及び政府広報)

3 企業関連

● 欧州最大で、世界でも8番目に大きい貨物航空会社のカーゴルクス社は、組合との議論の結果、今後4年間にわたってグラウンドスタッフとパイロットの賃金を値上げする集団協定 (**collective agreement**) を締結した。全世界に2000人いる従業員のうち、当地にある本拠で勤務するのが1500人、うち1300人が同集団協定の下に含まれている。(8月6日付 **Luxembourg Times** 紙)

● **Kleos Space** 社と **Spire Global** 社の当国二大宇宙企業が共同で、**Safety at Sea** プロジェクトを行う事を決定した。同プロジェクトでは、海上で違法運航している船舶を **Kleos Space** 社の衛星を用いて探知し、**Spire Global** 社の衛星を用いて画像を作成、各種海上及び政府機関と情報共有する。(8月7日付 **Luxembourg Times** 紙)

● 当国に子会社を置いているアメリカ系宇宙技術開発企業 **Made in Space** 社は、宇宙でも使用可能な、機械部品を印刷する3Dプリンター技術を開発している。例えば、NASAは宇宙ステーションの内外において様々な機械を利用しており、このような3Dプリンターへの需要がある。すなわち、この3Dプリンターを携行することで、機械部品を地球から持って行く必要性がなくなるのである。(8月14日付 **Luxembourg Times** 紙)

● 当国の宇宙技術開発企業 **Blue Horizon** 社は、宇宙にて人間の皮膚や骨を印刷できる3Dプリンターを開発している。これにより、乗船している宇宙飛行士の医療的な緊急事態

や、筋力や骨の弱化及びがんなどの直面しうる健康上のリスクに対応できるようになることが期待される。(8月19日付 Luxembourg Times 紙)

※当国政府の公開資料や各種報道などの公開情報を取りまとめたもの